

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02836

研究課題名（和文）「教室内英語力評価尺度」を使用した小学校外国語授業改善と教師の専門的成長

研究課題名（英文）Improving elementary school English teachers lessons and professional growth using the Classroom English Language Assessment Scale

研究代表者

中田 賀之（Yoshiyuki, Nakata）

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40280101

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：様々な小学校英語関連の学会で発表し、開発した尺度を使用し小学校英語教員を対象にワークショップを行い、JASTEC Journalにおいて論文が研究論文として採択された。さらに、これまで中高の英語教師のための教室内英語評価尺度マニュアルのホームページを作成しているが、そこに小学校英語のための教室内英語評価尺度と初めて動画（マニュアル付き）を公開した。これは、今後、小学校英語教師の英語での授業改善のための研修会やワークショップで活用されるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、小学校で英語を教える教師が、自らに求められる教室内英語力に気づき、必要な教室内英語力向上の研鑽に主体的に取り組む際にリフレクションの道具として使用できる尺度の使用方法及び研鑽の方策の開発にあり、教育的価値および学術的価値（教科教育学）が高く、独創性もある。

研究成果の概要（英文）：We presented at various elementary school English-related conferences, held workshops for elementary school English teachers using the developed scale, and have a paper accepted for publication in the JASTEC Journal. In addition, we developed the manual of the Classroom English Language Assessment Scale for Elementary School English and a video, and incorporated them into the existing manual of the Classroom English Language Assessment Scale for secondary school English Teachers. It is highly expected that these will be used in training sessions and workshops for elementary school English teachers' professional development in improving their English lessons.

研究分野：言語教師教育

キーワード：教室内英語 小学校英語教師 専門的知識の開発 気づきの高揚

1. 研究開始当初の背景

本科研の多くの構成員は、これまで中高版の教室内英語評価尺度を作成してきた専門的知識の蓄積がある。今回の科研プロジェクトでは、この蓄積も基盤としつつ、小学校英語教育の専門家や小学校英語に携わる協力者（現職教員）の協力も受けながら、小・中・高を横断した教室内英語という大局的な視点や枠組みを基盤とし、中等英語教育の改善を目的に蓄積してきた「教師用・学習者用の教室内英語力評価 尺度の開発及びその活用事例」等の成果を体系的に整理しつつ、小学校英語授業の改善及び英語教師の成長に資する教室内英語評価尺度の開発という喫緊の課題に取り組み、教育的及び学術的(教科教育学)に重要な課題である「いかに非英語母語話者である教師の教室内英語力を向上させ、小学校英語授業の改善をするか」という問いに挑戦した。

2. 研究の目的

科研の具体的な研究課題は以下の2点である。

- ・ 本研究は、「教室内英語力評価尺度」の活用を通じた小学校外国語授業改善および英語担当者としての成長を目指す共同研究である。
- ・ 科研で取り組んできた中等教育における教室内英語力評価尺度の開発の知見に基づき、小学校の英語授業改善・英語教員の専門的技能の向上及びそのための意識高揚に資する教室内英語力評価尺度の開発を目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、気づきを高める方策として、A) 研究代表者(中高版教室内英語尺度開発者)、B) 研究分担者(中高版教室内英語尺度開発者)、C) 研究協力者(小学校教員)で検討を重ねた。このプロセスにおいて、B は、B1) 研究分担者(中高版教室内英語尺度開発者)と B2) 研究分担者(中高版教室内英語尺度開発者・小学校授業指導助言者)のうち B2 と C の分科会でも検討も行われ、C にとっては、自身の現在・過去・未来の実践 についてのリフレクションにより教師の実践的知識の再構築(Connelly & Clandinin, 1998, p. 25)が行われ、B2、B1、A 及び指導教員又は後輩を指導する C にとっても教師教育者としての知見を広めたことになる。審議のプロセスには、現状の把握(授業 DVD の分析および担任・専科教員・指導教員による差異の確認)と3つの対話(「教育現場・授業との対話」「中高版尺度との対話」「理論との対話」)があり、これには現職教員だけではなく、中高版尺度開発の経験のある代表者および分担者も含まれる。

4. 研究成果

本研究プロジェクトの研究成果として、いずれも小学校英語関連学会での論文・学会発表・ワークショップ、加えて既存の中高版の教室内英語力評価尺度マニュアルのホームページの更新において「教室内英語力評価尺度活用マニュアル 小学校版」の追加と授業動画を加えたことで、ワークショップや校内研修で使用できるようにしたことが挙げられる。

<論文>

- ・中田賀之、長沼君主、狩野晶子、池野修、木村裕三(2023)
「教師の教室内英語への気づきを高める 教室内英語力評価尺度(小学校高学年版)の開発に関する事例研究」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』第42号、1-16.

<学会発表>

- ・2021年10月 中田賀之、池野修、木村裕三
「教室内英語力評価尺度(小学校版)の開発 総合的診断尺度に焦点を当てて」
(第21回小学校英語教育学会(JES)オンライン開催)
- ・2021年10月 長沼君主、狩野晶子、俣野知里、引山大士、幡井理恵、羽田あずさ、黒木愛、松崎奈穂
「小学校教室内教師英語力 Can-Do 尺度開発の試み 教師言語機能別尺度とパフォーマンスベンチマークの作成」
(第21回小学校英語教育学会(JES)オンライン開催)
- ・2022年10月 中田賀之、池野修、木村裕三、長沼君主、狩野晶子
「教室内英語力評価尺度(小学校高学年版)の開発 総合的評価尺度作成における小学校教員の

認識の変容 』

(第22回小学校英語教育学会(JES)オンライン開催)

・2023年8月 長沼君主,狩野晶子

「小学校教室内教師英語力 Cn-Do 尺度を活用した教師力向上支援 パフォーマンスベンチマーク映像とワークショップの開発 』

(全国英語教育学会(JASELE)第48回香川研究大会)

<ワークショップ>

・2022年11月16日 狩野晶子,引山大士

「小学校外国語(英語)教育 言語活動を通じた学びとは」

茨木市教育研究会外国語部会 11月市教研集会

・2023年5月26日 長沼君主,狩野晶子

「教室内教師英語力評価尺度を使ってみよう CAN-DO 尺度とパフォーマンスベンチマークからみる教師英語力 』

外国語評価勉強会(聖学院大学東仁美先生主催)オンライン開催

・2023年6月23日 長沼君主,狩野晶子

「教室内教師英語力評価尺度を使ってみよう CAN-DO 尺度を用いた授業映像分析からみる教師英語力」

外国語評価勉強会(聖学院大学東仁美先生主催)オンライン開催

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中田賀之 池野修 木村裕三 長沼君主 狩野晶子
2. 発表標題 教室内英語力評価尺度（小学校高学年版）の開発－総合的診断尺度作成における小学校教員の認識の変容
3. 学会等名 小学校英語教育学会全国大会 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 狩野晶子 引山大士
2. 発表標題 ワークショップ「小学校外国語（英語）教育 言語活動を通じた学びとは」
3. 学会等名 茨木市教育研究会小学校外国語部会研究集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 狩野晶子 黒木愛
2. 発表標題 Enhancing Genuine Communication Online at Elementary Schools
3. 学会等名 第48回全国語学教育学会 年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中田賀之 池野修 木村裕三
2. 発表標題 教室内英語力評価尺度（小学校版）の開発 総合的診断尺度に焦点を当てて
3. 学会等名 小学校英語教育学会2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長沼君主, 狩野晶子, 俣野知里, 引山大士, 幡井理恵, 羽田あずさ, 黒木愛, 松崎奈穂
2. 発表標題 小学校教室内教師英語力 Can-Do尺度開発の試み
3. 学会等名 小学校英語教育学会2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 狩野晶子, 引山大士
2. 発表標題 小学校外国語(英語)教育 言語活動を通じた学びとは
3. 学会等名 茨木市教育研究会外国語部会 11月市教研集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 裕三 (Kimura Yuzo) (80304559)	富山大学・学術研究部医学系・教授 (13201)	
研究分担者	池野 修 (Ikeno Osamu) (70294775)	愛媛大学・教育学部・教授 (16301)	
研究分担者	長沼 君主 (Naganuma Naoyuki) (20365836)	東海大学・国際教育センター・教授 (32644)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	狩野 晶子 (Akiko Kano) (80511526)	上智大学短期大学部・英語科・教授 (42717)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	アンドリュース スティーブ (Andrews Steve)	香港大学	
研究協力者	チャン クラリン (Chan Clairine)	香港教育大学	
研究協力者	黒木 愛 (Kuroki Ai)		
研究協力者	幡井 理恵 (Hatai Rie)		
研究協力者	羽田 あずさ (Hada Azusa)		
研究協力者	引山 大士 (Hikiyama Taishi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	俣野 知里 (Matano Chisato)		
研究協力者	松崎 奈穂 (Matsuzaki Naho)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関